

第6回

大和高田市教育環境あり方検討委員会が開催されました

令和7年11月27日(木)に第6回教育環境あり方検討委員会が開催されました。

第6回では「大和高田市立小中学校(園)のこれからの教育環境のあり方について(報告書)」を提出して頂きました。



1. 報告内容の抜粋

※詳細については「大和高田市立小中学校(園)のこれからの教育環境のあり方について(報告書)」をご確認下さい。

大和高田市における望ましい規模(一部抜粋)

<幼稚園>

大和高田市における園児にとって望ましい教育・保育環境を実現していくため、年齢に合わせて、以下の区分の設定を望みます。

【幼稚園の適正規模】

	1学級あたりの望ましい園児数	望ましい学級数
3歳児	10人以上	1学級以上
4歳児	15人以上	1学級以上
5歳児	15人以上	1学級以上

幼稚園の再編・統合については、就学前保育・教育ニーズの多様化への対応や地域の子育て機能の向上、老朽施設の建替え促進等の観点から、市立幼稚園単独で検討するのではなく、地域間での立地のバランスを考慮し、市立保育所、市立こども園とあわせた一体的な検討を進めていくことが適切であると考えます。

<小学校・中学校>

大和高田市における児童・生徒にとって望ましい教育環境を実現していくため、学級編成の基準について以下の区分の設定を望みます。

【小学校・中学校の適正規模】

	小規模	望ましい規模
小学校	11学級以下	12学級以上、18学級以下
中学校	8学級以下	9学級以上、18学級以下
義務教育学校	—	18学級以上、27学級以下

大和高田市における小学校・中学校の適正配置(一部抜粋)

今後、学校統合や通学区域の見直し等を行うことで、現状の通学区域における最長距離や最長時間を大幅に超える地域が生じる際は、隣接する学区での選択制やスクールバスの運行、自転車通学、通学補助金等導入の可否を含め、国の基準を満たすことを望むとともに、保護者の負担のない、実情に合わせた支援策を検討し、引き続き、犯罪や交通事故の防止など、通学路の安全確保を強く求めます。

再編の基本的な考え方(一部抜粋)

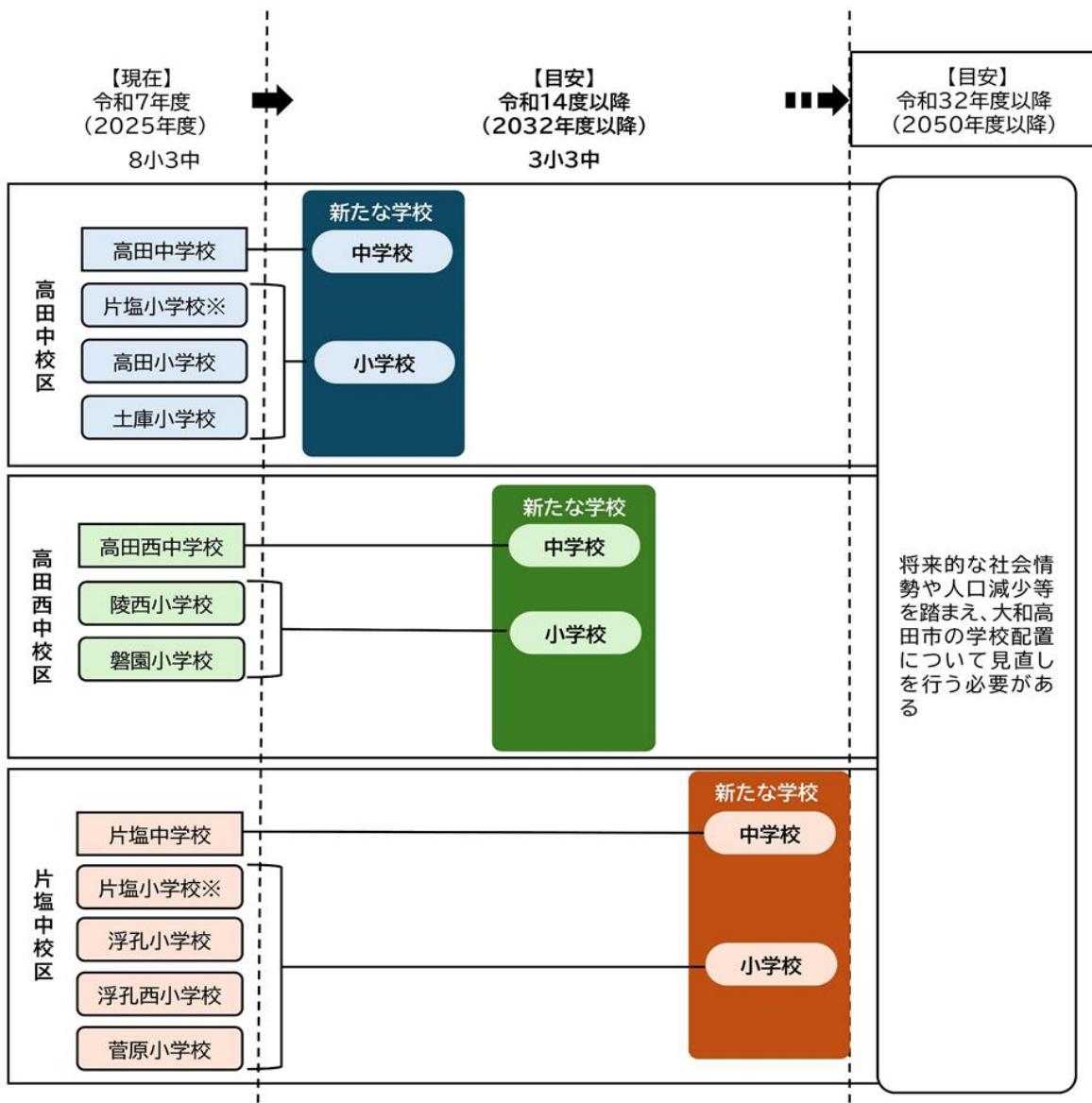
- (1) 子ども達にとってより良い教育環境の実現
- (2) 中長期的な視点での検討
- (3) 中学校区をコミュニティの基本単位とした検討
- (4) 地域とともにある学校づくりの推進

※詳細については「大和高田市立小中学校(園)のこれからの教育環境のあり方について(報告書)」をご確認下さい。

想定する将来の再配置のシナリオ(案)(一部抜粋)

大和高田市の適正規模・適正配置、再編の基本的な考え方に基づき、現在の中学校区単位を維持しながら、令和14年度以降に将来の目標校数を小学校3校、中学校3校とすることが望ましいと考えます。

【想定する将来の再配置のシナリオ（案）】



※再編後は現在の中学校区を基本とした1つの小学校から1つの中学校へ進学する校区分けをめざすことを望みます。

2. 今後のスケジュール

全6回の会議を経て、今回提出頂きました「大和高田市立小中学校(園)のこれからの教育環境のあり方について(報告書)」をもとに今後教育委員会では大和高田市学校園施設再配置基本方針・基本計画(案)を作成し、令和8年2月ごろパブリックコメントを実施する予定です。

また、令和7年12月に市民ワークショップを開催し、頂きました意見を踏まえてより良い学校環境の整備などを教育の基本方針に盛り込んでいく予定です。

